

CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	永守重信市民会館整備事業	階数	地上3F、地下1F
建設地	京都府向日市	構造	RC造
用途地域	準防火地域	平均居住人員	725 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,600 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年10月 予定	評価の実施日	2022年8月3日
敷地面積	6,927 m ²	作成者	田原正寛
建築面積	1,530 m ²	確認日	2022年8月3日
延床面積	3,098 m ²	確認者	田原正寛



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.6 ★★★★★☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆</p> <p>30%: ★☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>②建築物の取組み: 68%</p> <p>③上記+②以外の: 66%</p> <p>④上記+: 66%</p> <p>0 46 92 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q のスコア = 3.2		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.4</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.5</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.7</p>
LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.6		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.4</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.8</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3</p>

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<p>Q1 室内環境 空気質環境について内部仕上は全てF☆☆☆☆又は告示対象外となる建築材料を採用する。建物内に新鮮空気を多く導入する為に、居室における換気量を30m³/h・人とした。</p>	<p>Q2 サービス性能 基準より50%増の耐震性を有する。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) 景観や地域性に配慮し、開放的スペースの確保と緑化計画を行っている。</p>
<p>LR1 エネルギー 外皮(外壁、屋根)の断熱性能を高めることで、主に空調にかかる消費エネルギー量を低減している。また、LED照明、高効率給湯器、CO₂センサーによる換気制御等を採用することで、建物全体の消費エネルギーを削減している。自然エネルギーの活用としては、太陽光発電</p>	<p>LR2 資源・マテリアル 内装下地にLGSの使用により部材の再利用可能性向上を取り込んでいる。ライフサイクルにおけるCO₂排出量は参考値の66%まで低減している。</p>	<p>LR3 敷地外環境 近隣への配慮を行った計画としている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される